

1942(昭和17)年12月1日に誕生し、今年で市制施行80周年を迎える鈴鹿市。80周年にちなみ、このコーナーでは本市の発展を振り返ります。

◆ 記念事業のようす ◆

本市では、市制施行80周年を記念し、今年度さまざまな記念事業が行われています。

右の写真は、市制施行10周年・20周年時の記念事業で撮影された貴重なものです。

どれもその当時の様子を感じられる写真ばかりですが、節目の年を祝い、活気にあふれる姿は、今も変わりはありません。

10周年記念事業



▲記念式典



▲三重県物産展

20周年記念事業



▲市民音楽会



▲子どもたちによる20周年記念行進



80周年記念「応援事業」を募集中です。応援事業について詳しくは、二次元コードをご覧ください。



ひとまちモータースポーツ

”チーム三重”が打ち立てた大記録

自然の地形などの障害物を、足をつかずに走破する技術を競う2輪競技「トライアル」。その国内最高峰クラスで前人未至の10年連続・12度目の全日本チャンピオンに輝いたのが四日市市出身のおがわともゆき小川友幸選手です。所属するのは、本市に拠点を置くみなにともあきTEAM MITANI Honda(三谷知明代表)で、まさに“チーム三重”で成し遂げた快挙です。

トライアルは技術もさることながら、他選手との駆け引きや自分自身との戦いというメンタル面が大きな比重を占めます。現在46歳の小川選手ですが、強豪たちと競って念願の初タイトルを獲得したのは15年前のことでした。

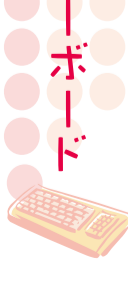
三谷代表は頂点に至るまでを振り返って、「ライバルとの切磋琢磨が、小川選手の精神力を高めました。特に接戦となった時の勝負強さは別格」と話します。とてつもない重圧に打ち勝ち、王座を守り続ける努力は想像を絶します。それでも穏やかな笑顔を絶やさない小川選手。三谷代表をはじめ、支えてくれる全ての人々に感謝しながら挑戦は続きます。

※小川選手のマシンは新名神高速道路鈴鹿パーキングエリアで現在展示中です。



▲大記録達成を喜ぶ小川選手

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)



ジェンダーやコロナ差別など、人権にまつわる問題が数多く発生しています。このような問題は「自分には関係ないこと」ではありません。自分の身近な問題として、互いの人権を尊重しあい、他人の人権に配慮することを、一人一人が考えたいものです。

さて、今回の特集では、これらの人権問題から皆さんを守る取組みを行っている人権擁護委員を紹介しました。特集を編集するに当たり、委員の活動現場に取材へ行かせていただいたり、お話を伺ったりする機会がありました。皆さんと話をしていて思ったことは、とても安心感があって信頼できる方たちだったということです。

差別を受けていても、相談できずにいる方もいるかもしれませんが。決して一人で悩まず、身近な人権擁護委員の皆さんに相談してみてもいいでしょう。(晴)